

令和元年度小松市立国府小学校 学校評価2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・8月提出）	取組の成果と課題（年度末・3月提出）
生徒指導（生）	〈積極的生徒指導により、児童に思いやりの心を育む〉	<ul style="list-style-type: none"> ・企画・5、6年児童が自主的に挨拶啓発運動を行い、挨拶を広めた。企画委員が各教室に呼びかけに行ったり、代表議会の話題に取り上げたりしたことで他学年の児童の挨拶運動参加率が上がった。また、廊下ですれ違う際に、自分から挨拶をする児童が増えた。 ・児童アンケート結果では、87%の児童が進んで挨拶ができたと答えている。上学年に比べ、下学年の挨拶への意識が低いため、2学期は企画し、当番制で挨拶運動を実施していく。 ・児童会便りは出せなかったが、児童集会や職員向けの「やかた通信」で児童・教職員に取り組みの意義（児童や担当の思い）や取り組み状況（児童の様子）を伝えていった。全教職員が共通理解し、同じ目標に向かって児童に働きかけられるように、「やかた通信」を継続していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期同様、上学年児童が自主的に挨拶運動を行うことが習慣になってきている。また、集団登校時にも挨拶を交わせるようになってきている。今後は、挨拶の質を上げていけるようにしていく。 ・2学期当初、各クラスでどんな挨拶を意識するか話し合いをした後、当番制によるあいさつ運動を実施した。また、挨拶運動後に、目指す挨拶ができたか振り返ってきたことにより、より質の高い挨拶に取り組み姿が見られるようになった。全学年が挨拶を意識して行っていることが、児童アンケート結果からも見られる。（進んで挨拶できたと答えている児童が91%）来年度も全校に挨拶が広まるように働きかけていく。 ・「やかた通信」を発行することで、児童が取り組みとして活動の意義を全職員が共通理解でき、同じ目標に向かって取り組めた。やかた集いを重ねる度に、児童が思いやりの心を育もうとする意識につなげていった。
	「やかたのあいさつ」を目標に掲げ、挨拶を通して思いやりの心を育んでいく。 ・児童会の企画に、全校児童が参加できるように支援する。 ・児童が挨拶の活動を広げられるように、代表議会と学級会をつなげる。 ・学期始めには、あたたかい挨拶があふれる学校をつくるために挨拶運動を全校対象に実施する。 ・成果を児童会便りに伝えたり、直接学級に伝えたりさせ、よりよい実践につなげる。 ・成果指標を児童アンケート【進んであいさつをしていると答えた児童が90%以上】とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期時間割、運動会時間割の支援員割を作成し、計画的にまた状況に応じて支援員による支援を行った。また毎週支援会議も行う児童の支援に生かしてきた。 ・スクールカウンセラー、心の相談員による児童や職員、保護者のサポートを行っている。個別の指導計画をもとにした専門相談も2学期に予定している。 ・1学期の児童アンケート結果は、「学校が楽しい」は85%（よくあてはまる60%）「自分には良いところがある」79%（よくあてはまる51%）であった。今後、否定的な回答をしている個々の児童に対する見取り、働きかけを行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期には、児童の様子を注意深く観察しながら、支援が必要と思われる児童について、専門相談員による援助等を数多く行ってきた。また、支援員、スクールカウンセラー、心の相談員と連携し、児童の支援を行ってきた。それにより、その後の児童に対するより良い支援につなげることができた。 ・2学期末の学校評価アンケート結果から、「学校が楽しい」と回答した児童の割合は86%（よくあてはまる52%）、また、「自分には良いところがある」と回答した児童は79%（よくあてはまる46%）である。この結果はほぼ1学期と変わっていないが、個々の児童を見るとやや変化もある。今後、1学期の回答結果とも比べながら、個々の児童について見取り、学年末までに児童が学校の中で自分の良さを感じ取りながら学校が楽しいと感じられるように、働きかけを行っていく。
特別支援教育（健）	〈支援の必要な児童に対し、支援の充実を図る〉	<ul style="list-style-type: none"> ・4月と6月の授業参観で、いくつかの学級は道徳の授業を保護者に公開した。まだの学級は11月か2月に公開するように呼びかける。 ・道徳便り1号を6月に発行した。今年度の重点項目と、運動会での思いやり行動について保護者に伝えた。 ・夏休休業中に校内研修を実施し、授業づくりに関する指導主事の講話と構想シートをもとにした教材研究を行う予定である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観、学校公開で道徳授業を保護者に公開することができた。 ・11月の学校公開に合わせて「道徳ファミリートーク」を実施した。道徳で学習したことを家庭でも話し合う良い機会となった。 ・夏休みに校内研修で、教材研究を行った。授業づくりの基本について学ぶよい機会となった。しかし、学んだことを授業を見合ったりして共有することができなかった。研修会の在り方を検討する必要がある。
	<ul style="list-style-type: none"> ・支援を必要としている児童を把握し、学期毎に支援員割を作成して計画的な支援を行う。 ・S.C.心の相談員、支援員で毎週行う支援会議をその都度職員に還元しつつ、PDCAサイクルを通してより良い支援を行う。 ・児童アンケート「学校は楽しい」「自分には良いところがある」の結果から、個々の児童の状況を把握し、その後の支援に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画に沿って、取組を進めることができた。今後、量はもとより質の向上を目指す。 ・「読む4」達成者は、61人であった。中・高学年は1冊を読了するのに時間がかかるため、達成者は少なかった。 ・貸出冊数データを利用して、学級担任から児童に声かけしてもらうよう、図書担当が学級担任に働きかける。 ・2学期いっぱい全員が達成できるよう、今後、図書委員会と呼びかけを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「読む4」達成者は、266人（83%）であった。図書担当が学級担任に働きかけ、学級担任が呼びかけ、意欲を喚起した。 ・読書ファイルを活用して、自分の読書生活を定期的に振り返ることができた。 ・読書オリンピックと多読賞の取組により、読書量の確保が図られた。図書委員会による読書週間の取組により、読書への意欲が高まり、質の向上につながった。 ・「読む4」の達成に向けた図書委員会の呼びかけや、図書館司書との連携を行うことで、より読書の質の向上を図りたい。
道徳教育（教）	〈考え、議論する道徳授業の実現をめざす〉	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みに校内研修で、各学年指導案を1本作成し、2学期に授業を交流する。 ・授業参観等で年1回以上公開授業を実施する。 ・11月の学校公開では、家庭で道徳について話し合う機会を持つ。 ・年3回、道徳便りを発行し、道徳の授業の様子を家庭や地域に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「読む4」達成者は、266人（83%）であった。図書担当が学級担任に働きかけ、学級担任が呼びかけ、意欲を喚起した。 ・読書ファイルを活用して、自分の読書生活を定期的に振り返ることができた。 ・読書オリンピックと多読賞の取組により、読書量の確保が図られた。図書委員会による読書週間の取組により、読書への意欲が高まり、質の向上につながった。 ・「読む4」の達成に向けた図書委員会の呼びかけや、図書館司書との連携を行うことで、より読書の質の向上を図りたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・「本のとびら」から各学年の課題図書4冊を1年間で読み切る「読む4」の取組を行う。 ・読書ファイルで定期的に自分の読書生活を振り返る。 ・読書オリンピックと多読賞を設け、読書に対する意欲を喚起することで読書習慣を育て、質の向上を図る。 ・月1回の貸出冊数のデータを利用して、毎月1回は読書指導を行い、全員月に3冊以上本を借りるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みに5・6年生児童を対象にゲーム・ネットについての実態調査を行った。結果は保健だよりや学校保健委員会の資料として、全保護者に伝え、ネット利用への意識を高めていく。 ・現在、実態調査アンケートを集計し、取組内容を検討している。学校保健委員会では、情報モラル教育支援教材を作成している『広教』の方をお招きして、ゲームやネットの長時間利用における生活習慣や心身への影響、危険性について考える機会とする。また、育友会としてネットのつきあい方についての国府小ルールを決め、全家庭に知らせて、学校保健委員会後も育友会と連携し、今後の取り組みにつなげていく。 ・ゲームやスマホを利用することによる姿勢や視力への影響については、保健室前の掲示板を利用して、全児童に知らせていく予定である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームやスマホを利用することによる姿勢や視力、睡眠への影響については、9月の身体計測時に各学年に応じて保健指導を行い、さらに掲示や保健だより等で、全児童や家庭にも知らせた。 ・学校保健委員会では、児童保健委員が家庭や学校でのネットやゲーム利用の場面を寸劇で発表し、PTA保健委員会からは、アンケート結果と長時間のネット利用による体と心への影響について発表した。講師の先生からは、アニメーション教材を使用し、ネットの危険性について話を頂いた。今年度作成した『国府小ネチケット五カ条』を提示し、PTA役員が家庭での話し合いやルール作りが必要であると提案した。 ・6年生では、学校保健委員会後に情報モラル出前授業もあり、再度、ネットとの付き合い方を確認することができた。 ・『ネチケット五カ条』については、学級懇談会で話題に取り上げたり、広報に載せたりと広めることで、家庭での話し合いやルール作りにも効果があった。また、国府小の決まりの中にも載せたので、育友会と連携し、引き続き児童に呼びかけたり、学年に応じて指導したりしていく。
読書教育（文）	〈読書量の確保と読書の質の向上を図る〉	<ul style="list-style-type: none"> ・「読む4」達成者は、266人（83%）であった。図書担当が学級担任に働きかけ、学級担任が呼びかけ、意欲を喚起した。 ・読書ファイルを活用して、自分の読書生活を定期的に振り返ることができた。 ・読書オリンピックと多読賞の取組により、読書量の確保が図られた。図書委員会による読書週間の取組により、読書への意欲が高まり、質の向上につながった。 ・「読む4」の達成に向けた図書委員会の呼びかけや、図書館司書との連携を行うことで、より読書の質の向上を図りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「読む4」達成者は、266人（83%）であった。図書担当が学級担任に働きかけ、学級担任が呼びかけ、意欲を喚起した。 ・読書ファイルを活用して、自分の読書生活を定期的に振り返ることができた。 ・読書オリンピックと多読賞の取組により、読書量の確保が図られた。図書委員会による読書週間の取組により、読書への意欲が高まり、質の向上につながった。 ・「読む4」の達成に向けた図書委員会の呼びかけや、図書館司書との連携を行うことで、より読書の質の向上を図りたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・「本のとびら」から各学年の課題図書4冊を1年間で読み切る「読む4」の取組を行う。 ・読書ファイルで定期的に自分の読書生活を振り返る。 ・読書オリンピックと多読賞を設け、読書に対する意欲を喚起することで読書習慣を育て、質の向上を図る。 ・月1回の貸出冊数のデータを利用して、毎月1回は読書指導を行い、全員月に3冊以上本を借りるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みに5・6年生児童を対象にゲーム・ネットについての実態調査を行った。結果は保健だよりや学校保健委員会の資料として、全保護者に伝え、ネット利用への意識を高めていく。 ・現在、実態調査アンケートを集計し、取組内容を検討している。学校保健委員会では、情報モラル教育支援教材を作成している『広教』の方をお招きして、ゲームやネットの長時間利用における生活習慣や心身への影響、危険性について考える機会とする。また、育友会としてネットのつきあい方についての国府小ルールを決め、全家庭に知らせて、学校保健委員会後も育友会と連携し、今後の取り組みにつなげていく。 ・ゲームやスマホを利用することによる姿勢や視力への影響については、保健室前の掲示板を利用して、全児童に知らせていく予定である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームやスマホを利用することによる姿勢や視力、睡眠への影響については、9月の身体計測時に各学年に応じて保健指導を行い、さらに掲示や保健だより等で、全児童や家庭にも知らせた。 ・学校保健委員会では、児童保健委員が家庭や学校でのネットやゲーム利用の場面を寸劇で発表し、PTA保健委員会からは、アンケート結果と長時間のネット利用による体と心への影響について発表した。講師の先生からは、アニメーション教材を使用し、ネットの危険性について話を頂いた。今年度作成した『国府小ネチケット五カ条』を提示し、PTA役員が家庭での話し合いやルール作りが必要であると提案した。 ・6年生では、学校保健委員会後に情報モラル出前授業もあり、再度、ネットとの付き合い方を確認することができた。 ・『ネチケット五カ条』については、学級懇談会で話題に取り上げたり、広報に載せたりと広めることで、家庭での話し合いやルール作りにも効果があった。また、国府小の決まりの中にも載せたので、育友会と連携し、引き続き児童に呼びかけたり、学年に応じて指導したりしていく。
保健健康教育（健）	〈家庭と連携し、規則正しい生活習慣の確立を目指す〉	<ul style="list-style-type: none"> ・児童のゲーム（オンライン）やスマホ利用の実態調査を行い、その結果を踏まえて、取組内容を検討する。 ・学校保健委員会でゲームやスマホ利用による生活習慣や心身への影響について親子で考える。 ・育友会と連携し、各家庭でのルールを親子で考え、決めてもらう。 ・保健だよりや掲示、各クラスへの保健指導を通して、生活習慣や心身の健康に関する指導を行う。また、必要に応じて個別指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「読む4」達成者は、266人（83%）であった。図書担当が学級担任に働きかけ、学級担任が呼びかけ、意欲を喚起した。 ・読書ファイルを活用して、自分の読書生活を定期的に振り返ることができた。 ・読書オリンピックと多読賞の取組により、読書量の確保が図られた。図書委員会による読書週間の取組により、読書への意欲が高まり、質の向上につながった。 ・「読む4」の達成に向けた図書委員会の呼びかけや、図書館司書との連携を行うことで、より読書の質の向上を図りたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・児童のゲーム（オンライン）やスマホ利用の実態調査を行い、その結果を踏まえて、取組内容を検討する。 ・学校保健委員会でゲームやスマホ利用による生活習慣や心身への影響について親子で考える。 ・育友会と連携し、各家庭でのルールを親子で考え、決めてもらう。 ・保健だよりや掲示、各クラスへの保健指導を通して、生活習慣や心身の健康に関する指導を行う。また、必要に応じて個別指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「読む4」達成者は、266人（83%）であった。図書担当が学級担任に働きかけ、学級担任が呼びかけ、意欲を喚起した。 ・読書ファイルを活用して、自分の読書生活を定期的に振り返ることができた。 ・読書オリンピックと多読賞の取組により、読書量の確保が図られた。図書委員会による読書週間の取組により、読書への意欲が高まり、質の向上につながった。 ・「読む4」の達成に向けた図書委員会の呼びかけや、図書館司書との連携を行うことで、より読書の質の向上を図りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームやスマホを利用することによる姿勢や視力への影響については、保健室前の掲示板を利用して、全児童に知らせていく予定である。
学校関係者評価	〈中間評価 8月〉	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の取組は、配布物等でよく分かるようになっており、「や・か・た」の取組が、昨年同様継続して行われていることも知っている。 ・学校行事を参観し、上の学年の児童が、下の学年の児童に上手に声掛けをしている姿を見ることができ、「や・か・た」の学校づくりが進んでいることが実感できた。下の学年の児童も、上級生の姿をみて、「こんなふうになりたい」という気持ちを持つことができていっているように思う。これからも「や・か・た」の学校作りは継続してほしい。 ・「や・か・た」に関して、教員より児童の意識が低いのが気になる。保護者としても、子どもの行動を認める声掛けをしていきたい。 ・SNS、ネットの問題は、学校より保護者・家庭で考えるべき問題である。学校保健委員会で親子で考える機会を持つことができるのは、とてもよい。育友会で独自のルールを考えることもよい取り組みである。 ・子どものアンケートは信頼できるのか少し疑問に思う。家庭での子ども達の会話を聞いていると、言葉使いも乱暴で、先生方に忤度しているように感じることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「読む4」達成者は、266人（83%）であった。図書担当が学級担任に働きかけ、学級担任が呼びかけ、意欲を喚起した。 ・読書ファイルを活用して、自分の読書生活を定期的に振り返ることができた。 ・読書オリンピックと多読賞の取組により、読書量の確保が図られた。図書委員会による読書週間の取組により、読書への意欲が高まり、質の向上につながった。 ・「読む4」の達成に向けた図書委員会の呼びかけや、図書館司書との連携を行うことで、より読書の質の向上を図りたい。
	〈最終評価 2月〉	<ul style="list-style-type: none"> ・全国的に不登校が増えていると聞く。本校でも積極的に取り組んでもらいたい。現代の子どもの実態に合わせて取り組んでいくべきである。 ・学年を超えた上下の結びつきや交流があるとよい。その意味で「やかた集い」は有効であると考えられる。自分の学年だけでなく、いろいろな学年と楽しく活動できるよう工夫して欲しい。 ・親は忙しいため、子どものよさが見えにくい。祖父母や教職員も、子どものよいところを子どもや親に伝えていくとよい。 ・先生が元気であることが大事。働き方改革はなかなか難しいだろうが、できそうなところからは是非取り組んでもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「読む4」達成者は、266人（83%）であった。図書担当が学級担任に働きかけ、学級担任が呼びかけ、意欲を喚起した。 ・読書ファイルを活用して、自分の読書生活を定期的に振り返ることができた。 ・読書オリンピックと多読賞の取組により、読書量の確保が図られた。図書委員会による読書週間の取組により、読書への意欲が高まり、質の向上につながった。 ・「読む4」の達成に向けた図書委員会の呼びかけや、図書館司書との連携を行うことで、より読書の質の向上を図りたい。

学校関係者評価	〈中間評価 8月〉	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の取組は、配布物等でよく分かるようになっており、「や・か・た」の取組が、昨年同様継続して行われていることも知っている。 ・学校行事を参観し、上の学年の児童が、下の学年の児童に上手に声掛けをしている姿を見ることができ、「や・か・た」の学校づくりが進んでいることが実感できた。下の学年の児童も、上級生の姿をみて、「こんなふうになりたい」という気持ちを持つことができていっているように思う。これからも「や・か・た」の学校作りは継続してほしい。 ・「や・か・た」に関して、教員より児童の意識が低いのが気になる。保護者としても、子どもの行動を認める声掛けをしていきたい。 ・SNS、ネットの問題は、学校より保護者・家庭で考えるべき問題である。学校保健委員会で親子で考える機会を持つことができるのは、とてもよい。育友会で独自のルールを考えることもよい取り組みである。 ・子どものアンケートは信頼できるのか少し疑問に思う。家庭での子ども達の会話を聞いていると、言葉使いも乱暴で、先生方に忤度しているように感じることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「読む4」達成者は、266人（83%）であった。図書担当が学級担任に働きかけ、学級担任が呼びかけ、意欲を喚起した。 ・読書ファイルを活用して、自分の読書生活を定期的に振り返ることができた。 ・読書オリンピックと多読賞の取組により、読書量の確保が図られた。図書委員会による読書週間の取組により、読書への意欲が高まり、質の向上につながった。 ・「読む4」の達成に向けた図書委員会の呼びかけや、図書館司書との連携を行うことで、より読書の質の向上を図りたい。
	〈最終評価 2月〉	<ul style="list-style-type: none"> ・全国的に不登校が増えていると聞く。本校でも積極的に取り組んでもらいたい。現代の子どもの実態に合わせて取り組んでいくべきである。 ・学年を超えた上下の結びつきや交流があるとよい。その意味で「やかた集い」は有効であると考えられる。自分の学年だけでなく、いろいろな学年と楽しく活動できるよう工夫して欲しい。 ・親は忙しいため、子どものよさが見えにくい。祖父母や教職員も、子どものよいところを子どもや親に伝えていくとよい。 ・先生が元気であることが大事。働き方改革はなかなか難しいだろうが、できそうなところからは是非取り組んでもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「読む4」達成者は、266人（83%）であった。図書担当が学級担任に働きかけ、学級担任が呼びかけ、意欲を喚起した。 ・読書ファイルを活用して、自分の読書生活を定期的に振り返ることができた。 ・読書オリンピックと多読賞の取組により、読書量の確保が図られた。図書委員会による読書週間の取組により、読書への意欲が高まり、質の向上につながった。 ・「読む4」の達成に向けた図書委員会の呼びかけや、図書館司書との連携を行うことで、より読書の質の向上を図りたい。